環境に優しい循環型社会へ

工期中の無事完成祈願

鹿児島市新北部清掃工場新築安全祈願祭は30日、鹿児島市犬迫町の同現場で行われ、発注者や施工業者、地権者など多数が出席して、安全施工と工期中の無事完成を祈願した。

安全祈願祭では、祝詞奏上などに続き、刈り初めの儀を大建設計・下舞建築設計事務所ＪＶ代表の隅谷康彦㈱大建設計社長、鍬入れの儀を赤崎義則鹿児島市長、鋤取りの儀を宮首昭彦三菱重工業㈱横浜製作所長、最後に施工業者を代表して松本國夫㈱大林組常務取締役九州支店長、前田忠二㈱前田組会長、小牧隆小牧建設㈱社長が力強く杭打ちの儀を行った後、それぞれ玉串を捧げて工期中の無事故を祈願した。

引き続き行われた直会では、施主を代表して赤崎市長が「高度な技術を駆使し、地元に十分配慮しながら万全を期して工事を進めていただき、地球環境にやさしい循環型社会に則した清掃工場を完成していただきたい」と挨拶。続いて、施工業者代表の宮首所長と松本九州支店長が「今日までの経験と実績をもとに、最新の技術で安全・安心な施設を完成させたい」「周りの環境等にも十分配慮しながら、安全第一に各社一丸となり、無事故無災害で早期の完成を目指します」と謝辞を述べた。

施工業者（落札額）は次の通り。

新北部清掃工場ごみ焼却棟新築本体（57億円）＝大林組・前田組・小牧建設ＪＶ▽同空気調和設備（5億6500万円）＝ダイダン・南菱冷熱工業・鹿児島日立ＪＶ▽同電気設備（5億3000万円）＝きんでん・親和電機・安楽電気ＪＶ▽給排水衛生設備（2億2850万円）＝日新工業・三和興業ＪＶ▽同機械設備（105億8100万円）＝三菱重工業

鋤取りの儀を行う宮首昭彦三菱重工業㈱横浜製作所長（上）と杭打ちの儀を行う松本國夫㈱大林組常務取締役九州支店長ら＝鹿児島市犬迫町の現地で

鹿児島市新北部清掃工場

粗大ごみ処理棟新築

年内にも分離発注か

同工場の建設場所は鹿児島市犬迫町1万1877外。ごみ焼却棟の建物規模は、ＳＲＣ一部Ｓ一部ＲＣ造地下2階地上7階建延べ2万7412・76平方㍍。工期は新築本体、同空気調和設備、同電気設備、同給排水衛生設備が17年11月、同機械設備が19年3月となっている。設計監理は大建設計・下舞建築設計事務所ＪＶ、地盤調査は日本ジオテックが担当。

なお総事業費は、同工場ごみ焼却棟の機械設備、新築などの工事請負費合計176億4500万円を含む約222億円。

今後の整備スケジュールによると、16年度に粗大ごみ処理棟新築（Ｓ一部ＲＣ造）、17年度に特別高圧受変電棟新築、計量棟新築、18年度に場内整備（舗装、植栽等）を発注する予定。このうち、16年度に計画している粗大ごみ処理棟新築の発注時期については、現時点では早ければ年内にも発注したいとしており、発注形態は分離発注を視野に入れている。

新北部清掃工場の全体配置図

マザーズロックⅡ現場見学会

大幅コスト縮減を実現

マザーズロック研

マザーズロック研究会（馬渡洋三会長）は30日、コンクリート製品関係者ら約20人が参加して、鹿児島郡吉田町と日置郡伊集院町のマザーズロックⅡ型施工現場を視察した。

当日は同製品を開発した末松吉生東栄商興㈱社長が現場で参加者らに同製品の特徴を解説。参加者らは熱心に説明を聴いたり、施工現場を写真に納めていた。

現場を視察する参加者＝吉田町の施工現場で

同製品は、客土、栗石流出などの問題点を解消し、大幅なコスト縮減と安全な施工による工期の短縮を実現。環境機能は、水中や水際部は胴込材に栗石を使用し魚巣の機能を有し、水際以上についてはプランターポット程度の客土部分を設けることで、在来種の植物繁茂が期待できる。

施工性については、製造物責任法の適用を受けた吊り金具、ワンタッチ式Ｖハンガーを使用するとともにブロックが自立するため据付時でのレベル調整が不要で据付時間が一段と短縮された。また、中詰・裏込コンクリートが不要なため、養生等の管理が省けてスピードが図れるとしている。

来月から川内土木と合併

50年の歴史に幕閉じる

宮之城土木

県行政改革の一環で、宮之城土木事務所は川内土木事務所と合併。昭和29年開設以来50年の歴史に幕を閉じる。4月1日から川内合同庁舎で新たな歴史を刻む。第26代、最後の宮之城土木事務所長となった梶尾信弘所長は30日、川内土木事務所の森永明所長を訪ね、川内合庁玄関前で握手を交わした。

梶尾所長は「事務所がなくなるのは時の流れですが、登った山はいつかは下りなければなりません。地域の皆さんには大変お世話になりました。あらためて感謝申し上げます」と心境を述べると、森永所長は「立派に最後の事務所を締めていただき、ご苦労様でした」とねぎらった。

なお、梶尾所長は1日付けで土木部工事監査監・林務水産部工事監査監、森永所長は林務水産部漁港課長にそれぞれ転任。新所長に土木部道路建設課長の福森静氏を迎える。

川内合庁前で握手を交わす森永川内所長（左）と梶尾宮之城所長

全国１カ所の公営工場

野田町立製材工場が閉鎖

全国1カ所の公営製材所、出水郡野田町（吉満重人町長）の町立製材工場が3月末で閉鎖。昭和29年開設以来50年間続いた操業の歴史に幕を閉じることになった。

昭和の市町村合併時、野田村（当時）が合併せずに単独の道を選択できたのは、同工場で得る自主財源があったからだ。開設から5年後の昭和33年から15年間、毎年一般会計に収益を繰り出し、その総額は15年間で32００万円に上った。最盛期の昭和55年には約8700万円を売り上げるなど常に町財政を支えてきた。

しかし、平成の時代に入ると木材需要が低迷。2年度頃から経営が厳しくなり、6年度以降赤字決算になった。徹底した経営合理化を進める一方、小学校屋内運動場や町営住宅の建設など、木材を活用した公共事業も取り入れたが、改善の兆しはみられなく、今回の閉鎖となった。

町は閉鎖を前に24日から26日の3日間、町民に工場内に残った製材などを売却処分することを決め、24日、前日の町内放送やチラシで知った町民らが閉鎖を惜しみながら買い求めていた。

最後の工場長になった井町直政助役は「一般会計の非常にいい財源だったのですが、残念です」と無念そう。16年度当初予算で同工場の解体を計画したが、財源不足で組むことができなかった。新年度補正で改めて組むことになる。工場跡地約4300平方㍍の今後の利用方法については未定で、議会などと協議している。

町財政を支え続けた製材工場

お手軽で便利な
購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ